

留 学 報 告 書

記入日:2014年 4月 30日

所属学部／研究科・学科／専攻	法学部法律学科
留学先国	カナダ
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: アルバータ大学 現地言語: University of Alberta
留学期間	2013年8月～2014年4月
留学した時の学年	4年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	基本的には4年扱いだがlaw schoolは3年間なので4年生は存在しない
留学先での所属学部等	法学部
帰国年月日	2014年4月27日
明治大学卒業予定年	2015年3月
留学先大学について	
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期:9月上旬から12月下旬 2学期:1月上旬から4月下旬
学生数	38,800人
創立年	1908年

留学費用項目	現地通貨 (カナダドル)	円	備考
授業料	7,806	726,000円	
宿舍費	5,632	523,776円	Lister Centreは宿泊費と食費(ミールプラン)セットでのプランになります。
食費	3,636	338,148円	
図書費	500	46,500円	教科書等
学用品費	150	13,950円	ペン、印刷費、試験用ソフトウェアなど
教養娯楽費	150	13,950円	ドッジボールリーグ、フットサルリーグ、ユニフォーム購入など
被服費	150	13,950円	
医療費	0	0円	
保険費	984	91,530円	形態:明治大学指定(required)
渡航旅費	3,010	280,000円	往復、チケットの手配が遅かったため高めです。もっと安くなります。
雑費	500	46,500円	パーティなど
その他		円	
その他		円	
その他		円	
合計	22,518	2,094,304円	1ドル93円で計算

渡航関連

渡航経路: 往路: 成田ーカルガリーーエドモントン 帰路: エドモントンーバンクーバーー羽田

渡航費用

チケットの種類	エコノミークラス
往路	180,000 円
復路	100,000 円
合計	280,000 円

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

skygate と CheapOairCanada

滞在形態関連

1) 種類(留学中の滞在先)(例: アパート、大学の宿舎など)

Lister Centre という大学の寮

2) 部屋の形態

個室 OR 相部屋(同居人数)

3) 住居を探した方法:

大学の HP から

4) 感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

Lister に住んだおかげで留学生活を楽しく全うできたと言って過言ではありません。フロア対抗のドッジボールリーグをはじめとした寮のイベントを通して多くのかけがえのない思い出を作りました。これから留学する留学生にも、ぜひ Lister に行って多くの友達を作り、True Listerite になってほしいと思います。

現地情報

1) 現地で病院にかかったことはありますか? 大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか?

利用する機会が無かった
 利用した:

2) 学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

自分の英語に自信が持たなくて困ったときは、フロアメートに相談しました。それ以外は特に問題がなかったので、相談窓口等を気にしたことはありませんでした。

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

特に際立って危険なところもなく、問題にも巻き込まれませんでした。最低限の防犯対策をしていれば大丈夫だと思います。

4) パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

大学内には Wifi が通っており、寮のカフェテリアやラウンジにも Wifi が通っていました。また、お金を支払えばケーブルをつないで、自分の部屋でインターネットを使うこともできました。とくに問題はなかったです。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか? (例: 現地に銀行口座を開けて日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

基本的にはキャッシュパスポートを使ってお金を送金してもらい、自分で引き出していました。また、現地で銀行口座を開けて、そのデビットカードを使っていました。クレジットカードもたまに使いましたが、現金の方がメインでした。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

特になかったと思います。

進路について

1) 進路
<input checked="" type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> 進学 <input checked="" type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> その他:
2)進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など
3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)
4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスがありましたらお書き下さい。 (例: 留学中の就職活動へ向けた準備, 帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)
5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。
6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)がありましたらお書き下さい。
7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスがありましたらお書き下さい。

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
18単位	<input checked="" type="checkbox"/> 12単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
LAW506 Public International Law	国際法
科目設置学部・研究科	法学部
履修期間	秋学期
単位数	3
本学での単位認定状況	2単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式
授業時間数	1週間に50分が3回
担当教授	Prof. Harrington
授業内容	国際法の歴史、法源、国家、国際組織(国連など)、管轄権、国家責任、外交官・国家の免責、など
試験・課題など	中間テスト20%、期末試験80%。
感想を自由記入	一か月でほしい200ページ進み、パワーポイントも使わず、レジュメや板書もまらなので予習が不可欠。期末テストも実際においている国際法関連の事件をそのまま題材として使うので難易度は高い。試験時間は2時間半。ただし、教授は頑張る学生にはやさしく教えてくれるので頑張れば何とかなる。中間テストもしっかり準備しないと全く歯が立たないので注意が必要。ただし、期末テストには教科書の持ち込みが可能なので、その点は多少助けになる。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Law555 Labour Law		労働法	
科目設置学部・研究科	法学部		
履修期間	秋学期		
単位数	3		
本学での単位認定状況	2単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式		
授業時間数	1週間に80分が2回		
担当教授	Prof. Zurbrigg		
授業内容	雇用形態の違いと解雇、被雇用者の権利、労働組合、ストライキ、雇用者の権利、雇用者組合、ロックアウト、ピケッティング、など		
試験・課題など	100%期末テスト		
感想を自由記入	当初担当予定だった教授が育休に入ったために、労働法メインの法律事務所から弁護士の方が来て講義を担当した。進むスピードがとても速く、追いつくこともままならなかった。なんとか単位はぎりぎりとしたものの、期末テストでの要求はとても高く、また母国語ではないものにとっては制限時間の3時間以内に完成度の高い答案を作成することは非常に厳しいだろう。しかし、交換留学生である点は考慮してもらえるようなので、興味がある人にはぜひ履修してみてもらいたい。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
LAW565 International Business Transactions		国際取引法	
科目設置学部・研究科	法学部		
履修期間	秋学期		
単位数	3		
本学での単位認定状況	2単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式		
授業時間数	1週間に80分が2回		
担当教授	Prof. Reif		
授業内容	国際法の法源、国債売買契約、準拠法選択、法廷地選択、通貨選択、調停、仲裁、など		
試験・課題など	期末レポート(25~30ページ)75%、レポート計画書10%、授業への貢献度15%		
感想を自由記入	教授が留学生に非常にフレンドリーで、日本にもよくいらしている方なので、日本人である自分にはとても親切に接してくださった。英語も比較的聞きやすく、パワーポイントを事前にアップしてくださるので、予習しやすい。期末レポートに関しては、計画段階に至るまでに教授がいろいろとアドバイスをくださるので、粘り強く頑張れば何とかなる。ただし、脚注の書き方のルールがカナダ法学関係論文独特のもの(McGill style)なので、しっかりと注意しながら書くことが必要。実際に与えられた条件で契約交渉の練習をする機会があるなど全体を通して興味深く、ためになる内容。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
LAW518 Intellectual Property	知的財産法
科目設置学部・研究科	法学部
履修期間	冬学期
単位数	3
本学での単位認定状況	2単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式
授業時間数	1週間に 50 分が3回
担当教授	Prof. Hutchison
授業内容	著作権、商標、特許、企業秘密、フェアディーリングなど
試験・課題など	期末レポート(本文 3000~4000 語+1000 語)100%
感想を自由記入	スライドがあまり助けになるものではないし、教授の声も聞き取りやすいものでもないの で、しっかり自分で教科書を読んでいないとついていくのはとても難しいと思う。期末レ ポートのリサーチも並行して行わなくてはいけなかったの、正直、予習は間に合わず 大変だった。また、レポートは 3000~4000 語と短めだが、逆に短いせいで満足に内 容を詰め込むことができず、さらに教授の求めるレベルが高いので、レポート作成は非 常に大変だった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
LAW451 Corporations Law	会社法
科目設置学部・研究科	法学部
履修期間	冬学期
単位数	3
本学での単位認定状況	2単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式
授業時間数	1週間に 50 分が3回
担当教授	Prof. Yahya
授業内容	ビジネス形態、経済・経営の基礎知識、代理、法人としての企業、株主の責任、取締 役の責任、職権乱用、派生訴訟、など
試験・課題など	期末テスト 100%
感想を自由記入	スライドと説明はわかりやすく、多少早口ではあるものの、教授の英語も聞き取りやす い。内容も非常に興味深く、会社法を日本で履修していなくても楽しめると思う。ただ し、この授業は正規の学生は必修なので、履修人数も多い。(といっても 50 人程度) テストは何でも持ち込み可能でラップトップやタブレットも可。ただし、その分、解答に求 められるクオリティも高い。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
LAW557 International Human Rights Law		国際人権法	
科目設置学部・研究科	法学部		
履修期間	冬学期		
単位数	3		
本学での単位認定状況	2単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	セミナー形式		
授業時間数	1週間に 80 分が2回		
担当教授	Prof. Reif		
授業内容	国際法の法源、国連システムにおける政治的、経済的、社会的、文化的権利、国連システムにおける女性の権利、子供の権利、欧州人権システム、アメリカ大陸における人権システム、アジア・アフリカにおける人権システム、など		
試験・課題など	期末レポート(25～30 ページ)70%、レポート計画書 10%、プレゼン(20 分間)15%、授業への貢献5%		
感想を自由記入	国際取引法と同じ教授で、非常にやりやすかった。セミナー形式ということで、授業中はよく意見を求められる。その発言がそのまま授業への貢献度の得点につながる。プレゼンテーションは自分が書いているレポートについてで、30 ページの内容を 20 分にまとめるのは非常に難しい。また、レポートそのものについても、しっかりとしたリサーチが求められるので(参考文献のページは2～3ページにわたることになる)、それも大変ではあるが、Thesis が決まればそこまで大変ではないと思う。全体的に非常に興味深い授業であった。		

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例：語学試験の勉強、選考、出願、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等
(形式は箇条書きなど簡単なもので構いません)

2012年 1月～3月	英語部でのスピーチ活動
4月～7月	英語部でのスピーチ活動、TOEFL 受験
8月～9月	英語部でのスピーチ活動、TOEFL 受験
10月～12月	英語部でのスピーチ活動、学内選考
2013年 1月～3月	出願(1月)、英語力向上に向けたトレーニング (リスニング力強化、英会話合宿参加など)
4月～7月	履修登録、寮の申し込み、ビザの申請(4月) 英語力向上に向けたトレーニング (英会話の授業の履修、リスニングトレーニング)
8月～9月	入寮(8月下旬)、秋学期授業開始(9月上旬)
10月～12月	中間試験(10月中旬)、期末試験(12月中旬)
2014年 1月～3月	冬学期授業開始(1月上旬)
4月～7月	期末試験(4月下旬)

留学体験記

留学しようと決めた理由	私が長期留学を決意した一番大きな理由は、当時の自分には「自分はこれなら他の人に負けない」と胸を張って言えるものがなかったことです。ケンブリッジ法学研修や英語部での活動、英会話合宿などを通じて英語力向上に努めてきたものの、やはりまだまだ力不足と感ずることが多々ありました。そこで、どうやったら自分が他の人に負けないと胸を張って言えるようになるか考えた結果、海外に飛び込み、長期間滞在し、そこで法律を学ぶことによって、「英語で法律を扱える」という武器を手に入れようと決意しました。
留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備	今思えば、もっと語彙を増やしておけばよかったですと思います。私は英語部でのスピーチ活動を通じて、ライティング能力やスピーキング能力を鍛えてきました。実際、それによって得られた能力は留学先でも大いに役に立ちました。しかし、それらの能力は自分の持っている語彙の範囲でしか発揮できず、説明やコミュニケーションに苦勞したことも多くありました。特に自分が履修をする科目の専門用語は、しっかりと学習しておくとても役立つと思います。
この留学先を選んだ理由	一番大きい、かつ唯一の理由は、この大学では自分の持っている TOEFL スコアで法学部に所属できたからです。法学部に所属するには TOEFL で 100 点以上求められるなど、基本的には非常に高いハードルを求められます。しかし、アルバータ大学は法学部にはそういったハードルが設置されていませんでした。他にも多少そのような大学はあったのですが、世界の大学ランキングやカナダ国内における知名度の高さ、カナダという国の他民族性と治安の良さなど、様々な要素を最終的には総合してアルバータ大学を選びました。
大学・学生の雰囲気	とにかく学生が積極的によく勉強します。法学部に限定すれば、ロースクールに入るにはいったん別の学部を好成績で卒業し、その後 LSAT という特別な試験を突破しなければならぬので、当然一人一人のレベルは高く、授業中でも教授の話の途中で手を挙げて、非常に鋭い質問をたくさんしていました。また、法学部の図書館に行けば、テスト期間であるか否かを問わず多くの学生が予習、復習、模擬裁判にと、とても一生懸命勉強していました。このような環境で学習できたことは非常に大きな刺激となりました。
寮の雰囲気	私は Lister Centre というところに住んでいましたが、ほかの寮に比べると International students の割合は少なく、カナダ人の学生が多く住んでいました。ドッジボールが盛んで(ルールは日本のドッジボールと大きく異なっていて、日本のものよりもエキサイティングなものです。)、各タワーの各フロアごとにチームがあって、一年かけてリーグ戦を行い、Lister のトップを決めます。今年度(2013-2014)は 32 チームが優勝目指して毎週しのぎを削りました。そのほかにも、各タワーごとにタワーイベントがあったり、フロアでハロウィンのイベントをやったり、シークレットサンタをやったり、フォーマルディナーに出かけたりとイベントは多くありました。とても優しい人が多く、International students でも自分から積極的にコミットしようとしている人にはとても友好的でした。
交友関係	最初の数週間はやはり言葉の壁が大きく、現地の学生の会話には当然加われず、つらい時間を過ごしました。しかし、言葉以外の部分でしっかり自分を表現するようにし、多少無理をして現地の学生の飲み会などに入れてもらうようになってからは、だんだん周りも自分のことを仲間として認めてくれるようになり、さらにドッジボールでも重要なポジションを任せられるようになって、だんだんと溶け込んでいくことができました。11 月には寮の中の月間タワースターに選ばれ、寮の雑誌で紹介されたこともあって、それ以降は寮の中でいろんな人に声をかけられるようになって友達を増やしていくことができました。また、誰でも自由に参加できるサッカーに参加して、そこでインパクトを残すことで、多くの人が声をかけてくれるようになり、そこでも友達を増やすことができました。
困ったこと、大変だったこと	何と言ってもつらかったことは、相当ハードに勉強をしないと授業について行けずらしいという現実と、誰かと会話をするという作業をしないと生きて英語力がつかないという現実のジレンマです。最初の頃は、「ただ勉強するだけならここでなくてもできるのではないか、でも交換留学生としてしっかりと結果を残さないといけないからやはり勉強は手を抜けない、では、いつ自分は周りの人と交流する時間を作ればいいんだ？」と自問自答しながら毎日悩んでいました。慣れてくればペースをつかむことができるようになるのですが、その域に達するまでが非常に大変でした。

<p>学習内容・勉強について</p>	<p>私は法律を専攻していました。特にグループワークをするといった機会は多くはなかったのですが、授業中に頻繁に質問や意見が飛び交うので非常にダイナミックでした。残念ながら最後までそのダイナミックさに完全に順応することはできなかったのですが、それでも自分に日本人としての意見を求められればしっかり自分の意見を言いましたし、たまに自分の方から手を挙げて意見を言うこともありました。しっかりと頑張る姿を示していれば、周りもそれを感じ取り、教授も基本的にはやさしく教えてくれましたし、周りの学生も声をかけてくれました。また、現地の授業スタイルと英語に慣れるまでは許可を得てボイスレコーダーで授業を録音し、復習に使っていました。</p>
<p>課題・試験について</p>	<p>特に成績に反映される課題が出ることは特になかったのですが、やはり膨大な量の予習が必要で、それを毎日こなすのが非常に大変でした。日本ではテスト範囲が100～200ページということが多かったのですが、アルバータでは、持ち込み可のテストが多いとはいっても、テスト範囲が600ページを超えるのでテスト前の勉強も厳しいものとなりました。特に我々のような英語が第二言語の人は、英文を考えるだけでも大変なので、テスト中に教科書等を開くのは確認程度で、基本的にはすべてしっかりと理解して、ある程度は覚えておく必要があります。また問題文も3ページにわたるような長文の事例問題に対して、その中における法律関係をすべて抽出し、その法律のあてはめを求められたり、抽象的な概念についての記述を求められたりと、難易度も高いです。基本的にはテスト時間は3時間で回答はラップトップを持ち込んでそれに答えを打ち込む方式ですが、タイピングでもなかなか時間は足りず、自分の力不足もあり(というよりは大いに自分の力不足により)、結局どのテストにおいても最後まで完答することはできませんでした。レポートの科目も非常に高いレベルを求められ、関連する論文や本を読み漁って、どのレポートもだいたい2か月かけて完成させました。レポートはテストと違い、自分のペースでしっかりと時間をかけて練れるので、個人的にはテストよりも好きでした。</p>
<p>大学外の活動について</p>	<p>ロースクールでの勉強と寮での交流だけで手いっぱいだったので、特に大学外の活動には参加することはしませんでした。もし履修している授業の関係で余裕があるようなら、ボランティアなどに参加してみても面白いと思いますが、余裕がないのであれば無理はする必要はないとも個人的には思います。結局は何にプライオリティを置いて留学生生活を過ごすかということに大きくよると思います。</p>
<p>留学を志す人へ</p>	<p>とにかく「自分から行く」という姿勢をしっかりと持つことが大事だと思います。日本に興味がある人を除けば、一定レベルまでその場所で知られるようになるまでは相手から話しかけてくれるということはありません。特に現地のカナダ人と過ごすということになればこれはなおさらのことだと思います。ただ、大事なことは、彼らは私たちのことが嫌いなわけではなく、自分たちとかわらうとしない人たちとは無理やりかわらうとしないというだけだということです。たとえつたない言葉でも、自分らしさをしっかりと表現し、いろいろなことに挑戦していくことによって、彼らも徐々に自分を仲間として認識し始め、だんだんと気にしてくれるようになります。学業面に関しては、とにかくつらくても続けることが大切です。無理をしていく中で、慣れてきたり、やった方がいいことやらなくてもいいことが見えてきて、だんだんと効率的に勉強ができるようになってきます。また、同じ授業に友達が最低一人でもいると困った時にいろいろと助けられるので、頑張る友達を作るようにした方がいいと思います。どんなに最初はつらくても、最後には必ず帰りたいと思うくらい、大きなものを得られるはずですよ。しっかりと強い意志をもって突き進んでください。Where there is a will, there is a way!!</p>

一週間のスケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前中	授業	授業	授業	授業	授業	自習	自習
	授業	授業	授業	授業	授業	自習	自習
午後	自習	自習	自習	自習	サッカー	自習	自習
	自習	自習	自習	自習	自習	自習	自習
夕刻	自習	自習	ドッジボール	自習	自習	自習	自習
夜	自習	自習	自習	自習	飲み会	自習か 飲み会	自習